

九州共立大学

経済学部

令和 3 年度

カリキュラムマップ

総合共通科目

(2015~2018 年度入学生)

学是 (学則第1条の2)				本学は、建学の精神「自律処行」、すなわち自らの良心に従い事に処し善を行うことを学是とし、この学是に則り、自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動できる人材を育成する。					
経済学部の人材養成及び 教育研究上の目的等 (学則第3条の3)				経済学部は、学是「自律処行」の精神に基づき、少人数制によるキャリア支援教育、総合教養教育、経済学・経営学の専門教育等を通じて、質の高い学士力を有し、多様化し複雑化する現代社会に適応できる、幅広い職業人を養成することを目的とする。 【経済・経営学科】 経済・経営学科は、経済学領域・経営学領域を広く学び、環境や消費者保護、企業倫理などの公共の視点に立ち、社会におけるさまざまな問題を解決できる経済・生産活動の担い手となる人材を養成することを目的とする。 【地域創造学科】 地域創造学科は、経済・経営学の科目を基盤に、地域創造に関する専門的知識を学び、PBL(Problem-Based Learning)やアクティブラーニング型の授業を重視した教育課程により、地域を構成する多様なステークホルダーと協働し地域社会の振興と発展に寄与できる実践力を身につけた人材の養成を目的とする。					
卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー:DP)				本学は、学是「自律処行(自らを律することができ、自ら考えて判断し、責任を持って行動する)」を体現し、総合的な教養、特定専門分野に関する知識を身につけ、深い考察力を備えることを目指す。その実現のために、卒業認定・学位授与の方針(DP)を3つの領域(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性)から構成し、各課程を修め、目標を達成した学生に卒業を認定し、学位を授与する。 【知識・技能】 キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。 【思考力・判断力・表現力】 本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。 【主体性・協働性】 自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。					
教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー:CP)				本学では、学生が大学の卒業認定・学位授与方針(DP)の目標を達成するために、総合共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、科目を配置する。教育内容、教育方法、教育評価については、以下のとおり方針を定める。 【教育内容】 1. 総合共通科目は、「教養教育科目」、「キャリア教育科目」を中心に、現代社会を生き抜くために必要不可欠な幅広い教養、および基礎学力等を体系的に学べるように科目を配置する。2. 専門教育科目は、各学部・学科の専門的知識を修得するために、基礎的内容から応用・発展的な内容まで体系的に学べるように科目を配置する。また、学問領域を超えた学際的な知識修得科目を配置する。 【教育方法】 1. 学生の主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)が実現されるように、双方向的・学生参加型授業、課題解決型授業などの多様な授業形態を取り入れた教育方法を実施する。2. 学外実習等を通じて体験的な学修活動を実施する。 【教育評価】 1. 各授業は、シラバスによって明確化された到達目標と成績評価方法に従い単位を付与する。2. 学修成果は、卒業要件の各区分単位を満たすことを含め、総合的に評価する。					
経済学部のカリキュラム						卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]			
科目区分	授業科目名	配当年次	開講学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。	【思考力・判断力・表現力】 本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。	【主体性・協働性】 自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。	
総合共通科目	ステップアップ講座B (英語基礎)	1年生	前・後	本科目では、英語Ⅰまたは英語Ⅱと同時進行で、TOEICに挑戦するために必要な基礎英語力を養いながら、TOEIC受験対策を実践的に行います。特に、350点程度のスコアを獲得できる語彙力、文法知識、リスニング力、読解力を身につけることに重点を置きます。また、TOEIC Bridge Listening & Reading IP TestやTOEIC Listening & Reading IP Testを受験することを目指します。	1. 学内で実施されるTOEIC Bridge IP TestやTOEIC L&R IP Testを受験し、TOEICの出題形式に慣れる。2. 授業で学習したリーディング・パートの内容について、60%の正答率をもって答えることができる。3. 授業で学習したリスニング・パートの内容について、60%の正答率をもって答えることができる。4. TOEIC Listening & Reading IP Testにおいて、350点程度のスコアを獲得することができる。	◎	◎	○	
総合共通科目	文学の世界	1-2年生	前・後	本講義では、日本の現代文学やサブカルチャーにおけるポストモダンを取り上げる。ポストモダンとは1980年代の日本と欧米において流行した、思想・文学・芸術上の潮流のことである。日本では「ニュー・アカデミズム」と呼ばれ、文学批評や絵画、建築といった幅広い学問分野に影響を与えた。この講義では、活字メディア(文学、思想)に限定されない、非活字メディア(映画、マンガ、アニメ)を含む多角的な視野から、日本のポストモダン文化を考察する。	・日本の現代文化に関するアカデミックな教養を深めることができる。・1980年代の日本近代文学に関する基礎的な知識を得ることができる。・日本のサブカルチャーを批評的に楽しむことができる。	◎	○	○	
総合共通科目	文学の世界	1-2年生	前・後	上代の文学から『古事記』『万葉集』を取り上げ、日本の伝統的な詩形である歌(歌謡・和歌・短歌)を講読する。上代は、口誦によって伝えられてきた神話や歌謡などが、『古事記』等に定着する時代である。『古事記』は、単に現存するわが国最古の歴史書という位置づけばかりでなく、その後の文学作品に影響を与えた点においても重要である。現存最古の歌集『万葉集』も同様である。本講義では、上代から現在に至るまで行われている歌をとらえて、日本文化を考える視点を提示することを一つの目的とする。	・日本の伝統文化に対する造詣を深めることができる。・文学作品に描かれた人物・情景・心情の表現とその効果を読みとることができる。・文学作品と人間・社会・自然との関係性を理解することができる。・上代文学に関する基本的な知識を得ることができる。・小倉百人一首に関する基本的な知識を得ることができる。	◎	○	○	

総合 共通 科目	文学の世界	1-2年生	前・後	本講義では、主に1920～40年代の日本の詩を取り上げる。1920年代から1940年代にかけての時期には、関東大震災や太平洋戦争など、歴史の転換点となる数多くの出来事があった。このような激動の時代において、日本の詩人たちは、社会の大きな変化と向き合いながら、詩に関するさまざまな試みを行った。本講義では、特に詩の表現(どのように書かれているのか)に注目し、それが、どのような社会的あるいは文化的背景のもとに生み出され、またどのような文学表現上の効果を持つものであったのかを考えることを目的とする。	・日本の詩を自分なりに丁寧に読み解くことができる。・「ことば」による表現と社会や文化の動向との関わりについて考えることができる。・1920～40年代の日本の社会や文化に対する造詣を深めることができる。	◎	○	○
総合 共通 科目	芸術の世界	1-2年生	後	1700～1900年代にアジアで制作された芸術作品(主に福岡の美術館に所蔵されている絵画)を鑑賞し、何がどのように描かれているのか、作品から何を感じるのかについてグループでディスカッションし、意見をまとめて発表する。授業の中で説明や配布資料を読むことで、作者が何を伝えようとしているのか、どのような政治社会的背景のもとに制作されたのかについて考える。	社会人として必要なアジアの芸術や歴史に関する教養を身に着け、感性を高め、コミュニケーション力を向上させることができる。主題や様式に注目しながら絵画を鑑賞する方法を身に付けることができる。グループワークを通して、他の学生と意見を交換し、作品には多様な解釈があることを知ることができる。	◎	◎	◎
総合 共通 科目	日本人論	1-2年生	前・後	自然人類学並びに文化人類学視点からスポーツ科学の発展を学び、今日のスポーツ文化を理解できるようになる。	1)社会学的視点に立ち、スポーツの発祥から変容を理解できるようになる2)これからのスポーツのあり方を予測できるようになる3)スポーツとは何か、再検討する視点を獲得できるようになる		○	◎
総合 共通 科目	日本人論	1-2年生	前・後	今後のスポーツ界はCOVID-19終息後、以前にも増して活況を呈するようになっていくことに疑いの余地はありません。スポーツ基本法の前文では文化としてのスポーツも強調されています。しかし一方では、ハラスメントの問題などがメディアで連日報道されるようになり、社会に与える影響も少なくない状況へとなっています。このような状況の中、スポーツは人間社会にどのような意味を持つのか理解を深めていくことが改めて問われています。本講義では、スポーツの概念や歴史を踏まえ、現代におけるスポーツの捉え方(フェアプレーやスポーツマンシップなど)を学びます。	1. スポーツの歴史的背景を学び文化としてのとらえ方を理解する。2. 我が国におけるスポーツの歴史を学び、現代におけるスポーツのあり方を議論できる。3. 今後の生涯スポーツのあり方について、提案できる能力を身に付ける。	○	◎	○
総合 共通 科目	歴史を考える	1-2年生	前・後	私たちが過去の経験から学んで未来に生かすように、社会でもそうありたい。これが教育の場で歴史を学ぶ一つの大切な理由です。歴史とは血が通った幾多の人々の人生が織りなす壮大な織物であり、私たちはこれを知り、考えることにより、様々なことを学び得ます。この授業では、なぜ歴史を学ぶのか、歴史とは何か、いかに歴史と関わるべきか、ということと共に考えていきます。「過去の痕跡」を扱う考古学を取上げるなど実践的分野や方法論にも触れて研究者の立場についても考えてもらうので、与えられた知識を覚えるという受け身の形ではなく、自ら考えて自らの答えに到達しようとする積極的な姿勢で授業に臨んでほしいと思います。	授業の際には以下の5項目を念頭に、自らの研鑽をめざして参加してください。1) 歴史は暗記ものという認識を改め、歴史とは人間社会の歩みの総体であると認識できる2) 私達自身が歴史の土台の上に存在し、自らが歴史の主体(主人公)であるとして理解できる3) 日常生活において、身近な郷土の歴史に関心をもち、歴史への知的好奇心を持てる4) 社会生活において、歴史という人類共通の遺産を大切に受け継いでいく意識を持てる5) 授業では、知識を得るのみならず様々な考え方や価値観を認め、自らの思考力を養える	○	○	◎
総合 共通 科目	法と生活	1-2年生	前・後	近年、日本の法律や制度は大きな変化を迎えています。2000年ごろからいわれる六法と言われる重要な法律は(憲法を除いて)大幅な改正がなされています。本講義では、こうした改正の動向を踏まえつつ、皆さんの暮らしに関わる重要な法律を紹介します。その上で、実際の社会で法律がどのように動いているのか、そしてどのように私たちに関わってくるのかを考えていこうと思います。毎回、受講者の皆さんには事例問題についての感想(ミーツペーパー)を書いてもらう予定です。	(1)法学(憲法・民法・刑法・社会法・裁判制度など)の基礎知識を習得すること(2)実際に法律が社会の場面(具体的事件)でどのように機能しているかを理解すること	◎	◎	○
総合 共通 科目	政治と国際問題	1-2年生	前	本講義では、初等・中等教育機関で学んだ「歴史」や「地理」、「公民」等の知識を踏まえて、それらを「グローバル・ヒストリー」の視点から再構成することを目的とする。「グローバル・ヒストリー」とは、「国家や民族の違いをこえて、世界中の人々が商業や文化で結びつくネットワークの歴史」(北村厚『教養のグローバル・ヒストリー』ミネルヴァ書房、2018年、3頁)であり、「世界を一体のものとする歴史」(『同』3頁)と定義した上で、「文明」(インダス文明、メソポタミア文明等)のおこりから冷戦期までの歴史を「国際情勢」に留意しつつ、現代のそれとの連続面と断絶面を学修していくことにしたい。	①現代の国際情勢と過去のつながりを理解する。②「グローバル・ヒストリー」とは何かを説明できる。③現代の政治・社会・経済の中で用いられる専門用語を過去の「歴史」との比較の上で、理解・習得する。④「歴史」を学ぶ意義を理解する。	◎	◎	◎
総合 共通 科目	政治と国際問題	1-2年生	後	政治と国際問題を理解するために、国家とは何か、また、それはどのような政治的営みを行うか、国家以外にはどのような国際関係の主体があるかを明らかにする。また、国際政治に対する主要な理論(リアリズム、リベリズム等)に触れ、それらの理論の出現に大きな影響を与えた第一次世界大戦等の歴史について学習する。現代の国際的な課題についても学習する。その結果、政治と国際問題に対する基礎的知識と能動的な思考能力を身につけることを目指す。	1. 国家をはじめとした国際政治の行為主体(アクター)についての基礎知識を身につけることができる。2. 国際政治に対する基本的な見方・理論を把握することができる。3. 国際政治の歴史および現状についての理解を深めることができる。	◎	○	
総合 共通 科目	科学を考える(生物)	1-2年生	後	「人」が社会で活動する時に必要な情報としての「人体の仕組みと働き」を取り上げる。食生活、健康、医療など、あふれすぎた情報に惑わされて、物事の本質を見逃してしまうことが少なくない。食や健康の話題を通じて、人間の社会活動に必要な生物学を学ぶ。	(1)三大栄養素(糖質・脂質・タンパク質)の代謝過程における相互関係について説明できる。(2)「エイズウイルスはなぜ怖い」、「ホルモン投与の危険性」などよく耳にする事柄について、誰にでもわかるように説明できる。(3)分子生物学の今後について、考察できるようになる。	○	◎	
総合 共通 科目	宇宙の科学	1-2年生	前・後	この講義であなたは壮大な地球の歴史を学ぶことができる。なぜ、ほ乳類は母親のお腹から産まれるようになったのか?なぜ人類は2足歩行を始めたのか?北米大陸の先住民と日本人の顔、姿が似ているのはなぜか?最新の研究によって明らかになった46億年にわたる地球の歴史とそれに伴う生物の進化を学ぶ。70億人を超える人類は、たった35人の母親から始まったことはあまり知られていない。授業では、美しいコンピュータグラフィックスを駆使した学術的番組を視聴しながら学ぶ。	①地球環境の激変によって生物の進化が促されたことが説明できる。②地球の自然環境の成り立ちと、現在の自然環境の問題点を理解できる。③進化における必要条件が理解できる。	◎	◎	◎

総合 共通 科目	英語Ⅲ	2年生	前	本科目では、英語Ⅰおよび英語Ⅱで固めた基礎を土台として、日常生活で使われる英文の理解をさらに深め、運用できる力を4技能を通してバランス良く涵養することを目指します。授業で学んだ文法事項を使い、日常生活で使える英文の作成や日常生活に関わる英文理解のための学習を行います。また、英語圏諸国の基本的文化理解も適宜行います。	1. 修得した文法知識や表現方法を使って日常的に使われる英文や、やや複雑な英語表現を理解することができ、簡単な英文を作成することができる。 2. 英語圏諸国の文化について、基本的な事項を理解することができる。 3. 授業で学習した内容の問題において、得点の60%程度取得することができる。	◎	◎	○
総合 共通 科目	英語Ⅳ	2年生	後	本科目では、英語Ⅰおよび英語Ⅱで固めた基礎を土台として、日常生活で使われる英文の理解をさらに深め、運用できる力を4技能を通してバランス良く涵養することを目指します。授業で学んだ文法事項を使い、日常生活で使える英文の作成や日常生活に関わる英文理解のための学習を行います。また、英語圏諸国の基本的文化理解も適宜行います。	1. 修得した文法知識や表現方法を使って日常的に使われる英文や、やや複雑な英語表現を理解することができ、簡単な英文を作成することができる。 2. 英語圏諸国の文化について、基本的な事項を理解することができる。 3. 授業で学習した内容の問題において、得点の60%程度取得することができる。	◎	◎	○
総合 共通 科目	フランス語Ⅰ〈再〉	1年生	前	初心者を対象にしたフランス語です。基礎フランス語文法、初歩のフランス語会話表現を講義します。フランス語の仕組みを説明した後、フランス語の文章を読み、CDでフランス人の発音を聞き、練習問題などを行います。また、実際に受講生同士あるいは教員との会話練習を通して、フランス語でのコミュニケーションを実践します。講義ではフランス文化も紹介し、異文化に対する理解も深めます。	1. フランス語の文章を音読することができる。2. 自己紹介や物を説明するなど、平易な会話をフランス語で行うことができる。3. 動詞être や avoir、規則動詞の活用、形容詞、冠詞、疑問文、否定文などの練習問題に答えることができる。		◎	◎
総合 共通 科目	フランス語Ⅱ〈再〉	1年生	後	フランス語Ⅰで学んだことを復修しつつ、基礎フランス語文法、初歩のフランス語会話表現の知識を増やしていく講義となります。フランス語の仕組みを解説した後、文法の練習問題を行い、CDでネイティブの発音を聞きながら、耳を慣らしていく作業を行います。また、受講生同士あるいは教員との会話練習を通して、フランス語でのコミュニケーションを実践します。講義ではフランス文化も紹介し、異文化に対する理解も深めます。	1. フランス語の文章を音読することができる。2. 質疑応答をフランス語で行うことができる。3. 重要な動詞や助動詞の活用、所有形容詞、疑問形容詞、補語人称代名詞などの練習問題に答えることができる。		◎	◎
総合 共通 科目	異文化を考える	1-2年生	前	交通網の発達で海外の国々が身近になった現在、21世紀を生きる皆さんにとって外国の文化を知ることは大切なことです。この講義では、英語圏の国の中でも、特に、イギリスに焦点をあて、イギリス文化を説明していきます。講義では、イギリス文化関係の専門書を用いて、イギリスの位置や気候からイギリスの繁栄の歴史などまで説明します。	英語圏の文化を学ぶことによって、国際社会で生きて行くことが可能な教養を身につけ、国際情勢に敏感な意識を持つことができるようになる。	◎	◎	○
総合 共通 科目	異文化を考える	1-2年生	前・後	アメリカは超大国として今もなお軍事や経済など、様々な面で世界に多大な影響を及ぼしている。日本とアメリカに関しても時に協力し合い、時に批判し合っておりその例外ではない。しかし、そのイメージとは裏腹に、アメリカは決して建国の当初から強大な国ではなかった。第1～9回目では、時系列順にアメリカ成立以降の道程を当時の文化に触れながら説明する。第10～14回目では、それぞれテーマを絞り、現代のアメリカにおける様々な問題を扱う。	①歴史を学ぶことで、アメリカという国を具体的、客観的に知ることができる。 ②文学作品や映画などを通してアメリカの文化に触れ、理解することができる。 ③アメリカにおける諸問題を学び、多文化共生に必要な視点を持つことができる。	◎	◎	
総合 共通 科目	異文化を考える	1-2年生	後	中国の古典小説『三国志演義』は名言の宝庫と言ってもよい。「三顧の礼」をはじめ、世に知られた名句も多い。この講義では、『三国志演義』にまつわる名句を学習しながら、小説における虚実の組み合わせや英雄豪傑の人物像を理解する。具体的に、「桃園の誓い」や「三顧の礼」「赤壁の戦い」などの名場面を中心に、DVD映像を鑑賞しながら、パワーポイントと配布資料を通して勉強を進めていく。	中国のことばと文化に興味を持ち、三国志物語の面白さを知る。また、中国の社会や文化、及び人々の考え方をより深く理解できる。さらに、学習を通して得られる世界についての情報を深く理解し、現代の日本社会について広い視野から考えられるようになる。	◎	◎	○
総合 共通 科目	異文化を考える	1-2年生	後	「異文化」がもたらす「外国」や「外国人」との連関で認識されることには一定の批判的向けたとしても、「グローバル化」「ボーダレス化」が一般化した時代を生きる今日の私たちは、日常的に「異文化」の存在を強烈に意識させられています。そうした状況下では多様性の共生が求められる一方で、現実には自らの価値観から外れる他者を排斥する傾向も顕在化しています。本講義では、主にヨーロッパを対象として、歴史、政治、文化的背景などの多様な観点と関連づけながら、「異文化」というテーマに多角的にアプローチします。	1. 「異文化」に対する既存のイメージと現実のギャップを客観化することができる。2. 「文化」を形成する諸要素を認識し分析的に理解することができる。3. 「異文化」間の相互理解のための有効な切り口を見いだし、他者への寛容性につなげることができる。	◎	◎	○
総合 共通 科目	異文化を考える	1-2年生	前	この授業ではアメリカの文化や歴史に関して学びます。アメリカの総人口は3億3006万人ほです。アメリカは日本と違い、多民族国家で、「人種のサラダボール」とも言われています。アメリカについて学ぶということは、多様な異文化について学びを深めるといことにつながります。非白人の合計が、2050年までには白人の人口を上回ると言われています。最近の移民は白人が少なく、ヒスパニック系やアジア系が多いとされており、多様な言語や習慣がアメリカに入ってきています。アメリカの文化や歴史を文学作品、ドラマ、映画、ディスカッション等を通して学び、アメリカの諸々の問題に対しての批判的思考を培います。	①多角的にアメリカの文化、歴史、社会問題に関して理解することで、固定観念にとらわれない、批判的思考を身につけることができる。②アメリカの文化・歴史に関して簡潔に説明できる。③異文化の社会問題に関して、基本的な自分の意見を他者に伝えることができる。④アメリカの文化や歴史的背景が分かるドラマや映画、文学作品などを通して基本的なアメリカの文化等の知識力が身につく、基礎的な 英文読解力や英語リスニングスキル等の語学力が向上する。	◎	◎	○
総合 共通 科目	スキルアップ講座M（ビジネス中国語検定試験）	2-4年生	前	この講座では、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」で習得した日常会話と基礎文型を復習しながら、より複雑なビジネス会話と文法を学習する。また、BCT（ビジネス中国語検定試験）の対策プリントを配布し、徹底的に練習することを通して、実用的なビジネスコミュニケーション能力を身につけ、検定試験にチャレンジする。	中国語の発音と文法の基礎的な知識を習得し、中国語で簡単なビジネス会話ができる。また、検定試験にチャレンジし、効果的に中国語を用いてビジネスに従事することができる	◎	○	○
留学生 特別科 目	日本文化研修〈留〉	3-4年生	前	大学の立地する北九州市とその周辺の文化施設や名所旧跡等を3カ所訪ねて、日本の文化と歴史を学びます。北九州市に隣接する遠賀郡芦屋町の芦屋釜で実際に茶道体験を行い、茶道の文化を学びます。また、宗像大社を見学して日本の古い神社と神道の文化に対して理解を深めます。また、日本で古くから親しまれているひらがなやカタカナの硬筆体験を通して、日本の文字に関する文化を学びます。	1. 日本の歴史と文化を知り、自分の国と同じ点、異なる点を理解して日本語で表現できる。2. インターネットや図書館を利用して、必要なことを調べることができる。3. 留学生生活はもちろんのこと、将来の職業選択にも活かせるような日本についての知見を身に付けることができる。	◎	○	○